

水墨画随想

この sumihiro.net は、順大流水墨画のギャラリーであり、かつ水墨画教室”sumihiro”、淡海(おうみ)水墨画研究会”sumihiro.net”の水墨画研究ネットワークです。

筆を持つことが少なくなった現在、墨の色が美しいと思える方も決して多くないと思います。自然が美しいと思えるように、墨の色も美しいと感じて欲しいと思います。

絵を描く基本は、花や木や風景などの自然を見て、「ああ美しい」とか「生き生きしている」と感じることでいいですね。そして、その感動を記憶にとどめておきたい、人に伝えたいと思うとき、スケッチしたり写真に撮ったりするわけです。

絵を描くということは、「感動したことを自分なりに表現したい」あるいは「その感動を人に伝えたい」ということですね。絵を表現する技が必要となります。

水墨画を習うに当たって、初学段階では手ほどきを受けるに越したことはありません。しかし、ずっと先生の手本を頼り続けても、未来永劫自分の絵にはなりません。手本に頼らず、できるだけ自然を観察し、「自然の対象から発見した感動を自分流に描く」ことで絵を描く楽しみが何倍にも大きくなります。そうしてこそ、生涯の楽しみになると考えます。水墨画を愛する人は、「濃淡の妙」とか「にじみかすれの妙」といってその美を褒めます。教室を始めてみて気づいたことは、諸学の方は私が思わぬところでかけずに苦しんでいるということで、筆にとる墨量が多すぎてボテボテになって、絵が滲みすぎてしまうのです。つまり、筆の表現の前に、「墨遣い」がわからないのです。

そこで、初学者のための水墨画練習法を開発しました。「滲まない絵」、「濃淡の変化で表現する絵」が誰にでもかける「墨遣い」の練習法です。

それでは、「慣れない筆づかいはどうするの?」という疑問が残ると思います。子供の頃には、よく塗り絵をされたと思います。教室では、スケッチをされた鉛筆画に筆をどう使えば墨をスケッチの上に置きやすいかを一緒に考えます。このように練習すれば、いつか独りで絵が描けるようになります。…私は、実際に、そのようにして色々なモチーフを描いてきました。そうすれば、先生に頼らず、手本に頼らず、描けるようになります。自然が先生という水墨画練習法です。

この随筆では、研究の中身を紹介する前に、自身が通ってきた水墨とのかかわりや数々の発見の喜びなどを中心に、随筆として連載することにします。